

DMR-UBZ1 の展開(11)

—BPODCH 受信(11)—

1. はじめに

前報(10)までの成果を確認するために DSD 録音を実施します。その際、PC 経由の録音も実施して比較試聴します。

2. BPODCH の視聴方法

前報(6)の方針は次のとおりで、前報(9)までにすべて完了しています。

- ① DMR-UBZ1 の前のルーター子機に【iPurifier DC+ Red Barrel Cable】を適用
- ② ①のRed Barrel Cableにアモルメットコアを装着
- ③ CTUの後のルーター親機に【iPurifier DC+ Red Barrel Cable】を適用
- ④ ③のRed Barrel Cableにアモルメットコアを装着
- ⑤ DMR-UBZ1はルーター子機に直接接続しているので、ルーター子機にぶら下っているBuffaloのオーディオグレードのスイッチングハブを介して接続
- ⑥ DMR-UBZ1に inputsするLANケーブルを、Buffaloのスイッチングハブに付属してきたLANケーブルからインフラノイズのLANリベラメンテに交換
- ⑦ DMR-UBZ1に inputsするLANケーブルのLAN入力端子付近にアモルメットコアを装着

一方、PCの方も①から④までの対策が完了していますので、その効果をDSD録音で確認し、PC経由の録音を基準としてDMR-UBZ1経由の録音がどこまでレベルアップされたかを知ることは興味があります。PC経由の録音は前報(10)の結果を踏まえて下記のとおりとします。

PCのUSB出力をiPurifier2 (TypeB) 経由でSonica DACに inputs

PCはSSD使用のW10機を使用し、1) と同様192KHzにアップサンプリングしてSonica DACに inputs

なお、PCの場合、有線LAN経由の再生と無線LAN経由の再生で音質の比較をしてみました。

DSD録音は通常通りTASCAM DA-3000により5.6MHzDSFで録音します。その際、GPS-777から44.1KHzのクロックを inputsします。

再生は、録音音源をfidataのSSDにコピーし、USB経由でSonica DACに inputsして再生します。

3. BPODCH の視聴結果

まず、有線 LAN 経由の PC による BPODCH 再生の録音を①から④の対策実施以前の録音と比較しますと、一聴して若干残っていた騒がしさがとれ、音楽の細かいニュアンスが分かりやすくなっていることが分りますので、2 台のルーターのノイズ対策が有効であったことが分ります。

有線 LAN 経由の PC による BPODCH 再生の録音と無線 LAN 経由の PC による BPODCH 再生の録音を比較しますと、前者は 2 本の LAN リベラメンテと Buffalo のスイッチングハブを経由しているにも関わらず、後者の方では何か音の欠落があるようで、ルーターから WiFi 経由で受信するより、有線 LAN 経由のメリットがあることが分かりました。

有線 LAN 経由の PC による BPODCH 再生の録音と同じく、Buffalo のスイッチングハブを経由している有線 LAN 経由の DMR-UBZ1 による BPODCH 再生の録音の比較では、前報(10)の比較の結果が DSD 録音でも確認できました。すなわち、PC の方は細身で切れ味が良く、DMR-UBZ1 の方は音が太目で押出のよい印象です。

4. まとめ

以前の録音との比較により、一連のルーターの対策が功を奏していることが DSD 録音で確認できました。有線 LAN 経由の PC の再生と無線 LAN 経由の PC の再生では前者のメリットが確認できました。

有線 LAN 経由の PC の再生と DMR-UBZ1 の再生では、前報(10)で報告した音の傾向が DSD 録音でも追認されました。

以上